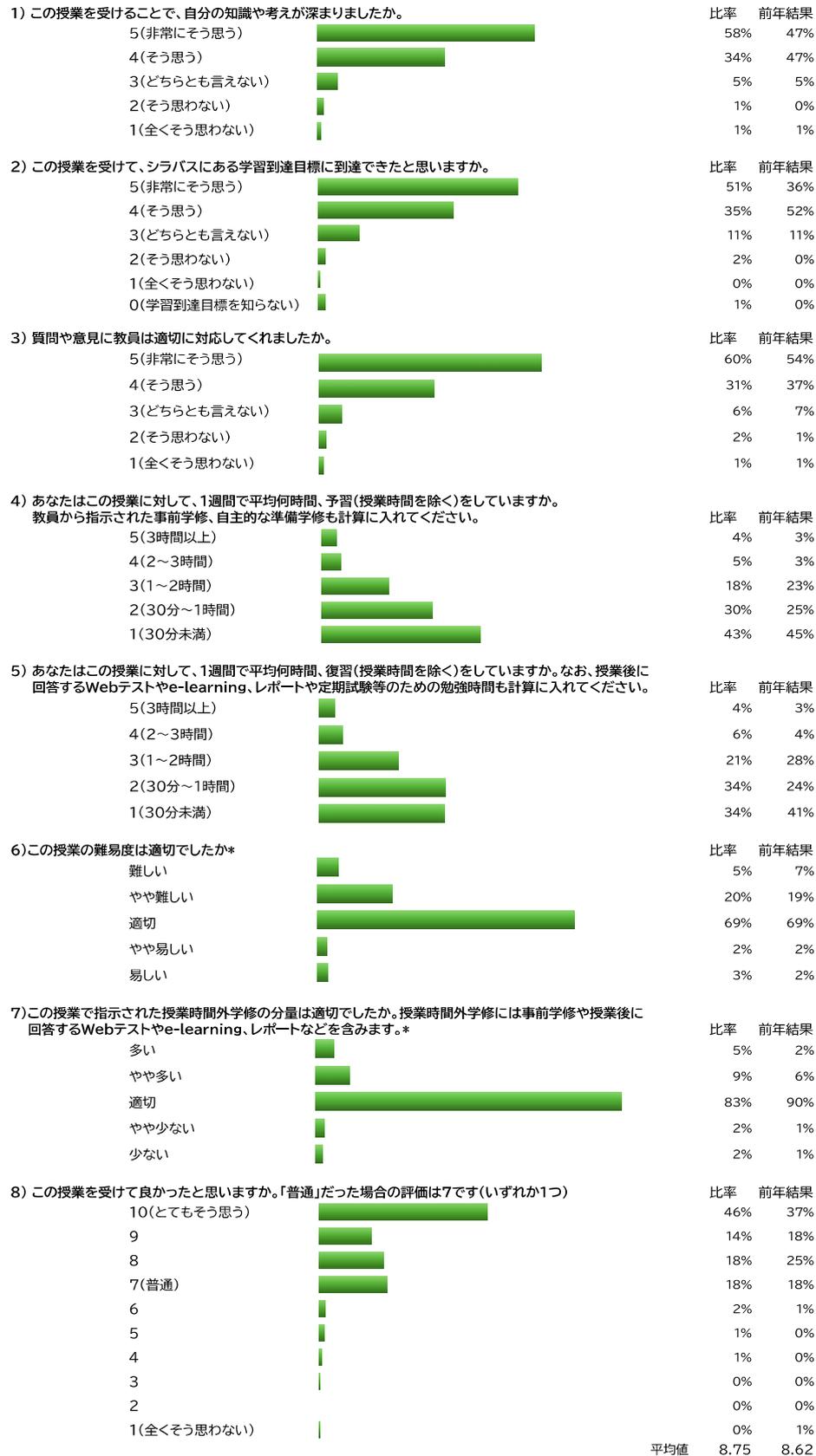


令和7年度後期 短期大学部 授業評価アンケート

回答期間	履修者数(延べ)*	回答者数(延べ)	回答率
令和8年1月9日(金)～1月27日(火)	1,508人	428人	28.4%

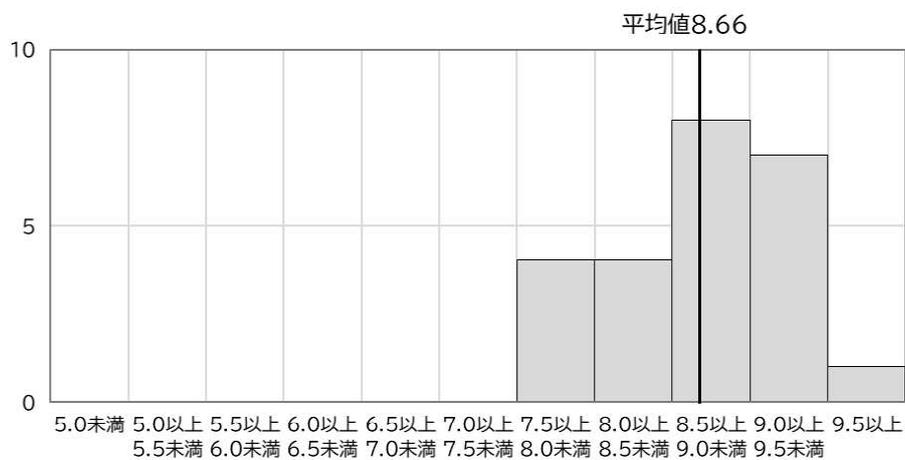
(前年回答率21.0%)



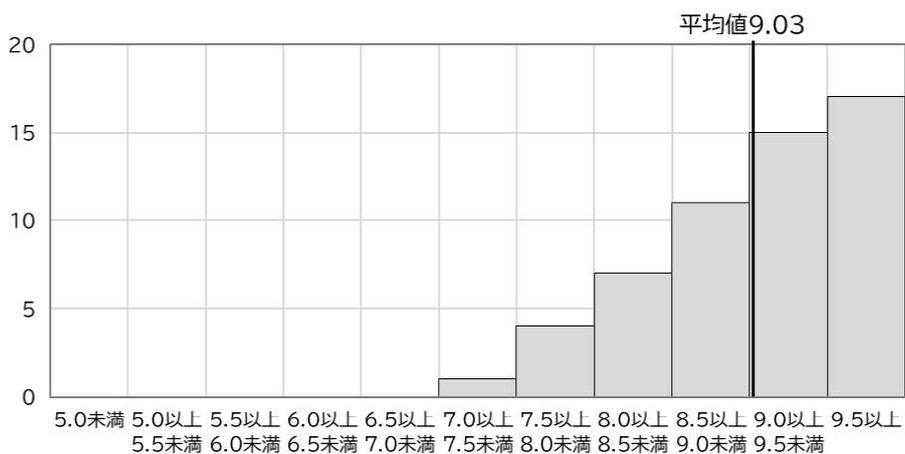
*アンケート回答者がいなかった科目の履修者数は計上していない。

10 段階評価の科目数分布

・回答数 5 以上の科目のみ抽出



・回答のあった全科目



短期大学部ディプロマ・ポリシーに関する設問の回答結果

前期に引き続き、全学共通設問に加えて、短期大学部独自にディプロマ・ポリシー（以下 DP）に関する設問を設けた。設問 Q12～Q15 は、それぞれ DP1～DP4 に対応しており、学生が授業を通じて当該 DP に関わる学修成果をどの程度身についたと感じているかを把握することを目的としている。

各設問の全科目平均値は 4.23～4.34 であり、いずれも 4 点を上回った。前期とほぼ同様の結果であり、学生の自己評価においてはいずれの項目も高い水準にあることが確認された。

また短期大学部履修要項では、各科目が主として貢献する DP 項目が明示されている。そこで DP 項目ごとに「当該 DP に対応すると位置付けられている科目」と「対応していない科目」に分類し、それぞれ設問平均値を比較した。分析の結果、DP4 においては、対応科目群の平均値が非対応科目群を 0.27 ポイント上回った。一方、DP1・DP2・DP3 は、両者の間に顕著な差は認められなかった。

この結果から、DP4 については、カリキュラム上の位置付けと学生の自己評価との一定の整合性が確認できる。一方、DP1～DP3 については、対応科目・非対応科目の差は小さい結果となった。これらの能力については、複数科目を通じて形成されている可能性が考えられる。

DP	設問	全科目平均	対応科目	非対応科目	対応－非対応
1	Q12	4.28	4.27	4.32	-0.05
2	Q13	4.25	4.28	4.23	+0.05
3	Q14	4.34	4.33	4.35	-0.02
4	Q15	4.23	4.47	4.20	+0.27

参考

短期大学部独自設問

Q12 この授業を通じて、ビジネス社会で広く必要とされる汎用的なスキル（例：思考力、表現力、社会人基礎力など）が高まったと感じますか。

Q13 この授業を通じて、自分の将来のキャリアや働き方について考える手がかりが得られたと感じますか。

Q14 この授業を通じて、将来役立つ専門的な知識やスキルが身についたと感じますか。

Q15 この授業を通じて、文化や社会、考え方などについて多様な価値観があることを理解し、協働する力が高まったと感じますか。

※回答選択肢は「非常にそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 5 択

短期大学部ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

短期大学部では、本学の「教育の目的」と「建学の精神」に基づいたカリキュラムを通して、ビジネスパーソンとして社会に求められ、貢献できる人材を育成します。そして、以下に示す水準に達した学生に対して、短期大学士(経営学)の学位を授与します。

- 1 ビジネス社会で必要となる汎用的能力(教養、知識、思考力、スキル)を修得している。
- 2 キャリアデザインが求められる社会的背景を理解するとともに、キャリアデザインに関する基本的な知識やスキルを修得している。
- 3 経営学・商学・経済学を中心に、その関連分野を含めた専門分野の基礎的知識、スキルを修得し、ビジネス社会において活用できる。
- 4 個人的及び社会的責任感をもち、文化や社会が多様であることに理解を深めるとともに、多様な人々と協働できる。